

平成28年度第1回大学リーグやまぐち代表者会議 議事録（案）

日 時：平成29年3月29日（水） 11時～12時20分
場 所：県庁4階 共用第1会議室

議 事

- 1 平成29年度収支予算（案）
- 2 平成29年度事業計画書（案）
→ 平成29年度予算案・事業計画書案について、ともに承認された。

- 3 「全国産業教育フェア山口大会準備委員会」への参加について
- 4 「山口県 県内進学・仕事魅力発信協議会」の体制変更について
→ それぞれ、承認された。

◆意見交換等の概要

テーマ

- 大学リーグやまぐちの来年度事業への意見
- 各大学での県内進学・県内就職に向けた取組の紹介 等

◇山口大学

- 現在COCプラス事業で、企業が求める能力の面からの就職支援のマッチングシステムを開発中
- 11月18日に、山口大学で、山口きらめき企業の魅力発信フェアを開催する。県内企業の魅力を知っていただいて県内就職率の向上につなげていきたいので、多くの学生に参加いただけるよう配意願いたい。

◇宇部フロンティア大学

- 県内進学ガイドブックはすばらしい。
- H28年度の県内就職率は45%。H27年度が54%。看護系がダウンの主因。看護職について、関西での試験は4～5月であるのに対し、県内では7月頃。県内での就職を推進していくには、県内での試験時期を早めていただく必要があり、4月に県内施設との協議会を開催する予定。
- 短大は、県内就職率80%弱という状況。今後も頑張っていきたい。

◇山陽小野田市立山口東京理科大学

- 県内進学に向けては、主に5点の取組を実施
 - ① 県教員向けに、47校を対象に説明会を開催
 - ② 107校への高校訪問
 - ③ 相談会や出前講座を開催
 - ④ 地域推薦枠を設けた入試制度

- ⑤ 市内出身者向けの入学金の優遇制度有
- 県内就職に向けては、主に3点の取組を実施
 - ① 県内企業123社の企業訪問
 - ② 県内企業の求人票の優先掲示、掲示ファイルの上層部に編綴
 - ③ 県内企業が過半数を占める学内合同企業説明会を開催（26社）

◇至誠館大学

- 県内進学ガイドブックの作成・配布は、大変ありがたい。
- 卒業生は131名のうち、日本人は40名、留学生は91名。
日本人40名のうち、萩市内への就職は、5名、県内への就職は11名。
また、留学生のうち、5～10人が、県内に進学している。
- 来年度は、山口きらめき企業の魅力発信フェアへの学生の参加を検討

◇下関市立大学

- 1学年450名で、平成28年度の就職率は99.5%。
このうち、25%が中国地方への就職。県内への就職率は14.2%。
金融・保険業界への就職が多い。
- 県内就職に向けた取組は、主に以下の3点
 - ① H29年度に県内企業のための学内説明会を開催予定
 - ② インターンシップについて、従前、3年生を主対象としていたが、今後、2年生を主対象とする。
 - ③ 県内・市内企業の経営者によるリレー講義の開催

◇水産大学校

- 1学年200人で、1割が県内出身者。県内就職は1割弱という状況
- 本年度からは、「国立研究開発法人水産研究・教育機構」の人材育成部門となった。また、県と包括連携協定を締結し、山口連携室を設置しており、県の水産業の発展に寄与していきたいと考えている。

◇東亜大学

- 高大連携の取組を実施
- 実学中心の教育を実施

◇徳山大学

- 県内就職率の割合が下がってきている。
COCプラス事業開始前年度(H26)：約40%→従前の30%代
- 県内就職を推進するには、就職時の対策だけでは成果が上がりにくく、入学生募集時の対策が重要と認識。現在、入学時の県内生比率が約30%。県内就職率も概ね30%。県内からの入学者がほぼ県内に就職すると考えられるので、県内からの進学者を増加させる取組が重要である。

その中でも、大学生と高校生によるディスカッションは、非常に良く、その取組を通じて、本学に進学した生徒もいた。

また、本学では、周南市等と連携して、学生が主体となった「がくまち」を組織して、まちおこし活動を実施している。そのほかに、地域キャリア教育やAP（大学教育再生加速化プログラム）を行っている。

進学に当たっては、高校の先生に、県内大学への進学という意識を持ってもらいたい。高校の先生と大学教員が、連携する必要がある。

これに加えて、進学決定には、保護者の意思が強く働くので、保護者へアクセスする取組が必要となっている。

◇梅光学院大学

- 本学は、九州から進学する学生が多く、ANAスクールなど外部団体とコラボした講義の実施などが、特徴となっている。
- 主な就職先は、教員や客室乗務員、公務員となっており、特に教員の42%が県内に就職している。一方で、国際化志向を育む英語教育に力を入れているため、県外への就職も多くなっている。

◇放送大学

- 働きながら学びを伝えることが出来るところが、本学の特徴
- 県内進学ガイドブックや県内進学フェアは、大変有効な取組であった。
- 山口市内の21地区において、放送大学の巡回講座を実施している。

◇山口学芸大学

- 山口学芸大学は、今年、開学10年、芸術短期大学は、平成30年に、開学50年を迎える。そのため、平成30年には、本学で、中国四国保育士研究大会を開催するので、ご協力をよろしくお願いしたい。
- 就職は、学芸大学の卒業生69名のうち、36名が教員、25名が保育士、3名が企業への就職となっている。また、芸術短期大学は、卒業生144名のうち、保育士95名、幼稚園教諭28名、企業5名となっている。
県内就職は、学芸大学、芸術短期大学合計で、95.1%。

◇山口県立大学

- 県内進学促進については、高校向けの出前講義、高校生による大学ゼミ体験を実施。ゼミ体験生のうち、1～2名が本学に進学した実績。
ゼミ体験は、高校からの依頼で開始したが、今後は、単発ではなく、年2～3回程度の実施を検討
- 就職については、以下の取組を実施

- ① 地域マインドの涵養（地域に根差した活動プログラム）
 - ② 県内企業と学生の出会いの場の設定（県内企業のゲストスピーチ）
 - ③ 県内優良企業の開拓（100社企業訪問）
マイナビ、リクナビに掲載されない県内企業の情報をスマホで検索できるようにしている。
 - ④ インターンシップ推進協議会を活用したインターンシップの推進
100名超がインターンシップに参加
- 県内就職は、昨年度47%だったが、今年度は41%に下がっており、学生の大手志向が県内就職率の低下に表れている状況

◇山口大学

- COC+事業において、今年度、教育プログラムをスタート
平成29年度は短期インターンシップを、平成30年度は長期インターンシップを実施するため、試行版に取り組んでいる状況
- また、山口県版リクナビとなるマッチングシステムを、現在、構築中
- 県内進学促進については、出前講座や高校生のゼミ参加、サイエンススクールを実施
- 就職支援では、教員と一緒に、支援しているが、山口大学の県内就職は26%程度と、あまり良くない状況。
企業においては、後継者不足で困っているという話を聞いている。そのような状況や大学生の企業の認知等を踏まえ、来年度も引き続き、県内企業を知ってもらうJobフェアを開催するので、皆様の御協力をよろしくお願いしたい。

◇岩国短期大学

- 創立45周年を迎えた幼児教育学科のみの単科大学。
- 県内定着に向けては、就職ナビ岩短による企業情報紹介、岩国子育て支援ネットワークを通じたいわたん親子フェスタや研修会の開催、卒業生によるキャリア教育となる「ようこそ先輩」やフォローアップセミナーなどを開催している。
- また、岩国市は、人口の1割・1万人がアメリカ人、園児の1割がアメリカ人という状況から、英語教育に力を入れている。
- 平成25年度に厚生労働省から都道府県への通知があり、保育士を目指す学生への修学金制度が設置できるようになっている。島根県、徳島県、大分県、愛媛県、宮崎県が実施しているので、山口県においても、実施に向けて検討していただきたい。

◇下関短期大学

- 県内生比率は85%であるが、ほぼ同じ割合で県内就職。
北九州など県外からの進学は、15%であるが、ほぼ同じ割合で県外就職となっている状況。
- 入学者が減少傾向にあるため、県内進学の実施を強化していきたい。

◇山口短期大学

- 県内就職率は50%程度。そのうち、県内進学者が県外へ就職した者が1名おり、県外からの進学者が県内へ就職した者が5名いるため、若者の県内定着には貢献していると考えている。
- 本学では、教員1名に、学生10名前後とフェイス to フェイスの関係にあり、県内就職に向けては、出前講座やハローワークと連携した取組を実施
- 徳山大学が言われたように、県外に出ていく高校生が多いことから、県内進学に当たっては、保護者へのアピールが非常に重要だと考えている。

◇徳山工業高等専門学校

- 本校では、キャリア教育を充実している。
- 平成27年度は、学科5年の卒業後、64%が就職で、36%進学という状況で、就職のうち、県内就職は31%
- 平成27年度は、学科+専攻科7年と学科5年を合わせて、県内就職は29%

◆質疑応答

◇梅光学院大学

長期インターンシップとは、どの程度の期間のインターンシップを考えているのか。

◇事務局（県・学事文書課）

- 送り手である大学では、学生を送り出すからには、どの程度の期間、頻度参加すれば、単位認定するかの課題があり、また、受け手である企業側にも、受入れの時期、期間、頻度等もあり、明確な定義はないようであるが、数週間から数か月と考えている。事務局としては、両者のマッチングを、この度、若者就職支援センターに配置する「就業体験支援員」に担っていただく予定。
- 各大学での長期インターンシップの実績等があれば、長期インターンシップの推進、充実に役立てたいので、情報提供をお願いしたい。